

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

何回も阪神淡路大震災は写真や動画でみてきたけど今まで教えてきてくれた人たちが経験してるのか  
どうなのかは分からないけど今回は実際体験している人、被害が大きかった神戸のところにいた人だ  
ったので話がすごく想像すると起きて欲しくないという気持ちになりました。話を聞く前や普段地震  
などについてかんがえることなんて滅多にないしこの117のときくらいだから話をきくと改めて地震  
の恐ろしさや被害、ふっこうまでのきかんのせいかつなどを聞いて今がどれだけ幸せでありがたく一  
日3食食べれるのが普通ではないことなのかを感じれる時でした。でもまたいつもの日常に戻ると当  
たり前になってしまうのが忘れてはいけないから日常にもどってもありがたみを明日れずに過ごせたら  
良いなとおもいます。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

阪神淡路大震災で、たくさんの方が亡くなってしまったのですごく悲惨なことなんだと前より思いました。阪神淡路大震災は、何が起こったかがわからないくらいの揺れだったそうなので、地震はいつくるかわからないし、急に大きな揺れがきたら怖いなと思いました。新聞などを見て、当たり前だろうけど街の復興に1年くらいかかっていたので、たくさん建物が壊されたんだなと思い地震は短時間でも建物を、壊してしまう力があると知り、恐ろしく感じました。地震は、いつどこでどんな大きさの揺れなのかがわからないし、自然災害なので抑えることができないので、大きな地震があったことは伝えていくことが大切なんだなと感じました。地震だけでなく、津波や火災なども起こるかもしれないので、地震は大きければ大きいほど強い被害を与えるので、阪神淡路大震災のことを覚えておき、地震対策をしていくことが大切だなと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

阪神淡路大震災を経験した神戸新聞社の方の話を聞いて、近くの大きいロッカーが倒れてくるほどの強い揺れが神戸を襲いたくさんの被害を出して多くの人の心を傷つけたのだと思いました。

校長先生が出してくれた新聞を見ると1月18日から2月5日までぐらいは被害状況のことや復興のことなど地震に関するものが多くあり、その中でも被災した方の希望の心が心に残りました。阪神淡路大震災が起きてしまっても悲しかったこともたくさんあったと思うけれど今を生き抜いていこうということが伝わったからです。

阪神淡路大震災はなぜ三十一年後の今まで受け継がれてきた理由は、阪神淡路大震災のことを受け継いで人を二度死なせないようにするということだと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

私は、新聞社の方の話聞いて、地震はすごく怖いと思いました。理由は、地震で、5人家族で自分以外なくなってしまった人も、家の瓦礫の下敷きになってしまった人も、長い時間助けがこなかった人もいるからです。DVDを見て、今は機械で緊急地震速報が流れるけど、その時は緊急地震速報がなかったから急に揺れて何が起きたかわからなかったと思うからすごく怖いと思うからです。校長先生の授業でも、地震の怖さが知れました。校長先生が当時の地震が起きてから数日の神戸新聞を持ってきてくださって、たくさんの記事が見れました。新聞を見ていると、まだ阪神淡路大震災という名前になっていない時の新聞記事が見れて、当時の人々の声がたくさん書いてあって、地震は怖いと思いました。校長先生が前に藤江小学校で6-2を担当していた時の写真などがあって、日付ごとに紙にいろいろなことが書いてあって、1、17から変わっていてあたりまえが崩れていました。地震が起きたら、電気もガスも水も使えないから、非常食や水、懐中電灯、などを地震が来る前に前もって準備したいと思います。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

神戸新聞社の方のお話や校長先生の授業を受けて、こうやって経験したことを後の世代にどんどん受けついで行っているのは、今までは当たり前だったことが、この阪神淡路大震災で当たり前が当たり前ではなくなってしまったから、そのことを伝えたい。それに、地震は戦争のように止めることやこの日に絶対来るとは予想ができないけど、地震に備えて食料や飲み物、生活に必要なものを用意したりする工夫はできる。このようなことを伝えるためにこうやって受けついでいるんだと私は思いました。

後の世代にこんなことがあったと伝えて、地震に向けて備えることができれば、阪神淡路大震災のような地震が起きても亡くなる人が1人でも減ったらいいなと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

僕が、新聞社の方のお話を聞いて感じたことは、地震が起きたら何が必要かを考えたけど、考えるだけではいけないと思いました。

もし、何が必要かを考えている状態で地震が起こってしまったら、考えてただけで何も用意していないので何もできないと思います。

なので今、何が必要かを、考えているのだったら行動にうつす！ということが大切だと思いました。

僕は「今を大切に生きる」という言葉が大切だと思いました。

理由は、地震で死んでしまった人たちの友達がもう一度〇〇に会いたい。でも会えないと言っていたけど

今、当たり前前に学校に行けて、当たり前前に友達に会えていることがすごく大事で貴重な時間を過ごせているのだと思いました。

だから「今を大切に生きる」ということが本当に大切なんだなと思いました。

校長先生と授業をして、実際に被害にあった人たちが書いた文章を読んでも、「ゴゴゴゴゴ」「ガガガガガ」などの音を字で表しているのだけでも、どんなに怖かったかどんなに恐ろしかったが伝わってきました。

他にも、音を字で表すのところを筆圧こく書いていたので相当すごい音がしたんだと伝わってきました。

なので、たくさんの方が亡くなった阪神淡路大震災を絶対に忘れてはいけない、人を二度死なせてはいけないと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

今日読んだ新聞に震災から3日で3000人以上の人が亡くなったことがわかりました。  
しかも今は当たり前の店に入った時の「いらっしゃい」という声が震災で気持ちが下がらない時  
があったようです。

そんな悪い空気が起きている一方で震災から4日で復興を頑張ろうなどの希望の気持ちも書いて  
ありました。

その阪神・淡路大震災の時は急に当たり前がなくなったと言っていました。

そんなことがあった時に後悔しないようにクラスのスローガンにもあるように今できる当たり前  
を当たり前にしなければいけないと思いました。

当時のことも昨日神戸新聞の記者さんにきいてすごく怖くて辛かったことがわかりました。

その時亡くなった人たちの為にもそのとき怖かったことをあとの世代に伝えて次地震が起きたと  
きにすぐに対応できるようにしなければいけないなと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

今までも阪神淡路大震災のことでは、毎年1月17日のニュースで流れてくる様子しか知らなかったし、阪神淡路大震災に限らず、地震が恐ろしいものだから、家庭での準備や避難訓練などをしていたことは知っていました。だけど、神戸新聞の記者さんのお話で仕事をしている人にしか分からない地震前の日や起こる前の様子、私たちが過ごしているようないつもの日常が始まろうとしている時に、まさか急にこんな地震が起こったらすごくパニックになるなと思って聞きました。だから、今日の避難訓練では窓から離れて机の下で頭を守ることを意識して今日の避難訓練をすることができました。話の中では、亡くなった人の家族で一人だけ残されたりなどたくさんの方が辛い思いをしていましたが、そんな中でも切り替えてみんなの役に立つ仕事を頑張っている姿を見て、本当にすごいと思いました。校長先生の授業は、当時の地震の時に出版されていた神戸新聞で実際のその時の様子や人々の気持ちがよく伝わりました。その中でも、街が少しずつ復興され、学校や仕事が始まった時の生徒の久しぶりに友達や先生に会った笑顔があったり、家が潰れ他の学校に転校してもその学校の人たちが温かくもてなしているところが、辛い思いをしていてもみんな支え合っていて、すごく頼もしい人たちだなと思いました。地震は、いつどこで起こるかわからないしなくすることもできないけど、私たちが生きていながら必ず起こるものだから、この地震のことを大切に伝えていきたいと思います。最後に授業を通して覚えた「人を二度死なせない」この地震で亡くなってしまった人はたくさんいるというのは事実で変えられませんが、その人たちを忘れるということは必ずしてはいけないとわかりました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

阪神淡路大震災は、31年に起きたことで私たちが生まれる前に起きた地震で当時どうなったとか色々阪神淡路大震災を受けた人などが次の世代にも教えてくれたからわかったけど、前の世代の人が教えてくれなかったら分からなかったから今回、校長先生の話とか神戸新聞社の方がこのことを教えてくださって言うだけでは当時の悲惨だったことが想像出来なかったけど校長先生と神戸新聞社の人たちは当時の新聞などを見せながら説明してくれたので、こう言うことがあって約6400人ぐらいの人がこう地震で亡くなったり行方不明になったりしてて本当に忘れてわならないことだし、こうやって伝えられてとても震災の恐ろしさがわかったので本当に受け継いでもらって良かったです。また他の学年の人たちにも教えたりして多くの方がすぐに地震で亡くなったってことを忘れてはならないとは思いました。神戸新聞社の方が1度目の死と2度目の死があって2度目の死は、無くなった他人のことを忘れるってことを言っていたのがとても心に響きました。

そして校長先生との震災の勉強では、いろんな新聞を見たりして当時の悲惨だった写真だったり悲しくて泣いている人がいる写真だったり映って色々わかったので本当に今回の学習を忘れないでおこうと思いました。

今日校長先生の授業の時に最初なんで阪神淡路大震災のことをこんなに受け継がれているのかって言う質問が最初と最後に聞かれて発表しようと思ったけどなかなか勇気が出なくてできなかったのでもここで書きます。

今の私たちはそんなに大きな地震にあったことが1度もないのでどのぐらいでかい地震だっただんなに悲惨だったとか人々の命を一瞬で無くなったりしてしまったからこのようなことは忘れないで頭の片隅には、入れたいと思います。

神戸新聞社の人、校長先生の震災学習をどうして色々学べたので本当に良かったです。

そして今日校長先生のと授業の時の最後の方で家族で今回学んだことを自分で進んで家族に話しました。そしたら当時の話をお父さんがしてくれました、。

その時お父さんは、中学1年生で1月17日に修学旅行がある予定だったらしくて明日修学旅行楽しみってなって他時の朝に地震が起きたので本当にいつ起きるか分からないので備えは大事だよって言うことを教えてもらいました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

神戸新聞社の方に見せてもらった阪神淡路大震災を再現したドラマを見て初めて知ったことがいろいろありました。

一つ目は、地震が発生した時最大地盤が4メートルずれたことであんなに高くて大きなビルやマンションが傾いていた映像や当時初めての震度7を観測したのが初めてと聞いて驚きました。

二つ目は学校に6日も行けなかったり神戸の復興にかかるお金が数億円以上と聞いて大変だなと感じました。

校長先生から聞いたお話では人を二度死なせないということを頭の片隅に置いて、あの日の震災のことを亡くなった方々のために何年経っても絶対に忘れないでいようと思います。

今回教えてもらったことを後の世代に伝えていこうと思います。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

全体を通し、阪神淡路大震災のことについてたくさんお話を聞かせてもらって、阪神淡路大震災の当  
時のことやその後の様子などを知ることが出来ましたが、その中で自分が一番心に残っているのは校  
長先生の話であった、「なぜ、今でも阪神淡路大震災のことを自分たちぐらいの年の子に伝えようと  
しているのか」ということです。神戸新聞社さんの話で倒壊したビルから救出された負傷者を運ぶ  
人々の姿を目の当たりにして、報道という使命と人命救助という人としての本能の間で、複雑な思い  
があったということが心に残っています。校長先生の話は、藤江小学校の体育館の天井が落ちている  
写真や話を聞かせてもらったり、校長先生は経験しているからこそ、これらの経験から、「過去の教  
訓から未来を考え、色んな人たちに当時の心境を伝えていこうと思っている」と言っていたのが心に  
残りました。これからも、阪神淡路大震災のことを色んな人たちに伝えていこうと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

神戸新聞社の人のお話では、阪神・淡路大震災で起こったことを動画  
などで詳しく教えてくれました。特に、阪神・淡路大震災の揺れは  
10～15秒程度と聞いた時は、10秒15秒で人が死んでしまうんだなと怖  
くなりました。過去は変えることはできないけど、亡くなった方など  
の思いをつないでいくことはできる。だから、神戸新聞社の人から教え  
てくれた人を二度死なせないという言葉が心に残りました。金井校長  
先生の授業では、この阪神・淡路大震災のことを未来に繋げようと2ヶ  
月新聞をとっていたのがすごいと思いました。その新聞に阪神・淡路  
大震災で悲しい気持ちになった人はいっぱいいたと思うけど、みんな  
生きようと努力している新聞がいっぱいあって、これは次の世代にも  
つないでいかないといけないなと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

当時の人の混乱や悲しみなどが新聞から伝わってきて、どれがけ悲しかったかなどがわかった。  
新聞から、「驚いて声も出なかった」とか「もの凄い恐怖ー」みたいな記事で、それだけ被災した人  
が助けて欲しかったとか中には友達や家族が亡くなってしてかなしみに暮れているひともいて、  
もう一度こんなことを繰り返したくないという被災者の思いから、このことが31年たった今でも続い  
ているんだと思います。

もし自分が寝ている時に急に立てないくらい地面が揺れ始めたら、ほんとに驚いて声も出ないと思  
います。南海トラフ地震が起こったら、どこに逃げるかなどを家族で確認しておいて、学校や仕事でば  
らけていたらどうするかなどを考えておくの良いと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

元々も地震はめちゃくちゃ怖くて恐ろしいものということを知っていたけど神戸新聞社の人のお話を  
聞いてさらに地震は恐ろしいと思うようになりました。

阪神淡路大震災は初の震度7を記録した地震でそれだけで被害はすごい事になるし、そしてその時代  
の時は今みたいな緊急地震速報もないから地震が起きた時なにが起きたのかすらわからなかったのと  
地震の対策も出来ていなかったのもあり結果的に大きな被害が出てしまったから、もう二度とそんな  
ことがあってはならないからこれを知った自分たちがどんどん後の世代に伝えていかなければならな  
いと知ったから神戸新聞社の人や校長先生が言っていた人を二度死なせないということはとても大事  
に伝えなければいけないと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

神戸新聞社の方の話聞いて、いつも通りの朝に急に大きな地震が起きて、たくさんの人々が亡くな  
ってしまって、災害の中でも「地震」はとても被害を大きくする(周りの人たちを巻き込むことにな  
る)のでそのためにも災害が起きた時などに避難する場所などを事前に確認し、災害が起こった時な  
どにすぐにその避難所へ避難できるように、日頃から備えておくのが大事だと改めてわかりまし  
た。

新聞社の方の話を通して、災害はいつ起きるかわからないものでとても恐ろしいものだと感じ、この  
ような地震が今後、いつ起きてもおかしくはないから日頃から食料や水、着る服などを準備して備え  
ておいた方が今後の自分の身のためにも少しは困らずに済むと思ったし、改めて「日頃から災害が起  
きた時用に備えて(準備をして)おくことが大事だと改めてわかりました。

自信が起きたその当時の生活や被害はどうなっていたのかなどが映った映画みたいなのを見せてもら  
った時、家の中にあるものが全て崩れていくのを見て(棚・キッチンの棚の中にある食器など)、私  
がもしあの場にいたら何が起きたのかわからなくなってパニックになっていると思います。でも、  
地震が起きた時は冷静になって落ち着かないと、もしも津波などが来た時に避難するのが遅れて命が  
助からなかったとすると自分でもゾッとするので日頃から備えておくのも大切だけど、日頃から「冷  
静さ」に着目して生活した方がいいと(今後の生活にも役立つ)改めて思いました。

地震はいつ起きるか分からない。だから日頃から災害について家族と相談し、備えておくことが大  
事。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

今まで阪神大震災の話を知っていたけど、実際に地震を体験した人の話を聞いたことがなかった  
ので神戸新聞社の話は、実際に体験した人にしかわからない話を話していて、地震の恐ろしさがよ  
り深くわかりました。神戸新聞社の人が言っていたように、人は2度死ぬと言っていて体が死んでしま  
うのと人との記憶から無くなってしまふことで人を2度しなせてはならないことがわかりました。校  
長先生が持っていた31年前の新聞を実際に見ると、地震が起きてから200日ぐらい阪神淡路大震災の  
話を書いてあってそのほとんどが、みんなで頑張って乗り越えようと全員で支えていることがわかる  
写真が写っていることがわかりました。毎日のように家族と入れることや、友達と一緒にいられる  
ことの大切さがわかった。いつ地震や災害が起きるか分からないし、もしかしたら、明日が来ないか  
もしれないから、身近かの人を大切にしようとおもいました。

## 阪神淡路大震災振り返り

僕は1月17日に阪神淡路大震災について学びました。阪神淡路大震災は、今から30年前に起きた震度7の直下型地震らしいです。そして1番怖かったのは高い地震に強そうなビルがスルスル～みたいな感じで崩れたみたいなんです。他にも今1番怖いのがストーブが倒れてできる火災です。それでもっと怖いのがそういうのが起きた時の避難経路を考えていないことです。てわけで新聞で起こったことも大体わかったから、家族全員でまたこんどゆっくり真剣に話し合おうと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

何回か阪神淡路大震災の話は聞いていたけど神戸新聞社の方の話も伝えていかなきゃいけない理由とかがもっとちゃんと分かったけど、校長先生の授業が特に分かって、古くなったちゃんと取っておいた新聞をみたらその時当時の被災された方がどんなことを思っていたか、どれだけ酷かったか、大変だったかがわかったし、黒板に言葉を抜き出して書いたけど、書いてるときはわからなかったけど遠くから見たらすごい量がかかれています、見ていったらさらにもっとわかったし、これ以上に怖かったんだらうなって思いました。

自分が抜き出した言葉で、「やっと顔が洗えた」みたいなことがかかれています顔も洗えなかったらもちろんお風呂も入れなかったらうし、そこに写ってる写真をみたら顔が洗えて嬉しそうな表情をしていて、顔が洗えただけで嬉しくなるってことは一瞬にして今までの当たり前が奪われて、苦しかったんだらうなって思いました。

だからよりこれからは意識とか本当に来た時にどうするかとかをもっとちゃんと決めようと思いました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

本当に、たくさんの方が亡くなった震災だからおんなじことが起きないように対策をしているけど地震は自然災害だからいつ起きてもおかしくないし止めることができないから怖いなと思いました。今自分が生きていて一度は起きると思うからその日までしっかり家族と対策したいと思います。校長せんせいや新聞記者さんは本当に体験した実体験などを話していただいたからどんなことが起きたかなどその当時は何をしていたか、校長先生の自分も拝見させていただいたけど亡くなった人の数や名前が自分に記載されていること、たくさんいることが悲しいなと思いました。この地震で家族を失った方もいるから、本当に忘れてはいけない震災だと思います。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

地震はとても怖くまあ大丈夫でしょと思っていたけどそんなあまいものではないと改めてわかりまし  
た。

地震によって多くの命や物いろいろなものがたった何十秒で消えてしまうというとても恐ろしい災害  
だとわかりました。他にも地震だけでなく二次災害阪神・淡路大震災は火災火によって焼けて死んだ  
とか煙を吸いすぎて死んだとかいろいろな亡くなり方をされた人もいっぱいいたのはとても怖かった  
です。

他にもライフラインがなくなったり。

ライフラインがなくなったらみずが使えなくてトイレが流せなかったりガスが止まるとお湯が出せな  
い、電気が止まると電気がつかない、これほど怖いものだ改めてわかりましただからぼくもキオつ  
けたいと思います。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

校長先生の授業は、その時に、休んでいたなので話が聞けなくて残念かったです。校長先生のお話は聞けなかったけど、神戸新聞社の方のお話は、聞いて良かったです。神戸新聞社の方では、阪神淡路大震災で実際にあったことを話してくれたり、阪神淡路大震災のドラマを見ました。阪神淡路大震災のドラマは、阪神淡路大震災の時の揺れみたいになんて揺れていたり、窓が割れたり、何かが落ちてきたりしているのがとてもリアルですごかったです。阪神淡路大震災のドラマは、最後まで見れなくて少し残念だったけど、面白かったです。実際であったことは、インターネットで阪神淡路大震災を学校の授業で調べたことがあったけど、インターネットで調べていても初めて聞いて知らないことがたくさんありました。

神戸新聞社の方の話や校長先生の授業を通して自分が感じてことをかきま  
しょう。(300字以上) 締切1月19日

校長先生の話や神戸新聞社の方話を聴いて思ったことは、やっぱり阪神・淡路大震災は、とても恐ろしくて、人々に恐怖や悲しみを与えたことが分かったし、今の世代の人たちは、阪神・淡路大震災のことを話しでしか知らないから、体験をした方の話を聞けることは、とても貴重なことだと改めて思いました。私は、阪神・淡路大震災を体験したことがないのでとても貴重でした。家族からたまに阪神・淡路大震災について聞くけど、聴いたことがあるだけで、阪神・淡路大震災を体験した、校長先生や、神戸新聞社の方から話を聞くだけだったので、とても心に響いたし、一つ一つの言葉が刺さりました。これからも自然災害に備えて、対策していきたいです。